

新宮山彦ぐるーぷ第1989回

本山修験宗・聖護院の南奥駆修行を行仙宿等での支援接待

◇実施日：2018年09月02日(日)～03日(月)

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、大江加予子・徳子、畑林清子。

(1泊2日)。生熊敏男・千満子(2日・3日帰り)。

2日：橋本 梓、濱野兼吉、児嶋道夫、中前 偉、

上村洋司・和美、奥村順夫、竹中卓治、高階鈴子、

山川治雄、中村佳文、岩本信行、梶野照雄、志岐 敬。

21名、延28名。

本山修験宗・聖護院門跡から来年に執行する「深仙灌頂会」の慶讃行事として、前鬼から熊野へ抜ける南奥駆道を9月1日～5日の日程で修行するにあたり、行仙宿での宿泊と食事調達及び玉置神社宿泊時の食事手配を依頼され、平素よりご支援ご厚誼を頂いているので相談の上、支援接待を引受けることにした。行仙宿では、昨年の「役行者坐像開眼供養」の様に夕食を、女性陣で手作りして下さる事になったが、3時出立の為、朝食・昼食の弁当2食分も自前で調理して下さる事になった。玉置神社の夕食は仕出し業者(万福食堂)に依頼し、朝・昼の弁当2食分は手作りする旨を聖護院へ連絡し了承を得る。

8月23日に聖護院から募集の結果46名、4日の吹越宿・採燈護摩供で昼食49名の連絡がある。25日に台風20号により前鬼林道は通行止めになり、行仙宿への国道425号線は幸いにも通行可を連絡すると共に当ぐるーぷは東北遠征登山(26～29)のために、南奥駆道の点検は出来ない事を連絡する。

東北遠征登山から帰った30日に聖護院に連絡すると、前鬼林道は通行止め(歩行可)であるが、懸念していた小仲坊は食事可で実施するとの返答。持経宿の池郷林道は、ゲート迄通行可であるがゲートから車通行不可を伝えると共に、台風21号が

9月4日頃には確実に影響を受けそうな予報を念のため伝える。その後、南奥駆修行は、3日に玉置神社で宿泊後、4日午前中に京都へ戻る行程変更と参加者43名の連絡を受ける。

9月1日(土)

午前中、食事献立の買出し(大江親子・畑林)を行い、沖崎宅で荷揚げ食材等(3升炊ガス炊飯器・ガスボンベ・米25kg。調味料、佃煮類等)を梱包(沖崎・川島)する。午後からも明日からのおまぜごはん等の下準備(大江親子・畑林)をされる。

9月2日(日)

曇り時々晴、午後一時雨

沖崎車に食材・器材を積み込み、大江車、上村車で6時に出発、日足で昨日東大生研修ツアーに同行して和佐又・笙の窟を案内された中前氏が沖崎車に同乗し登山口に7時半頃に到着。程なく熊野市(山川・中村・岩本)、尾鷲・海山(奥村・竹中・高階)の方達も到着。

登山口横の支谷は、砂防堤を越えた土石がガードレールの高さ迄埋まっている。砂防堤の水抜土管から水が汲めたのだが、水が汲めない。林道下排水溝から道路下約10m下に滝となって流下している。道路下に川島・沖崎・濱野・岩本氏が降りて、ポリタンク(7L×10L)に上戸で満杯にして、ロープで上に引揚げて貰う(飲料水計150L汲む)。



第二ベンチで小休止



荷揚げを終え行仙宿で



行者堂下の陥没補修

水汲みの間にモノレールで食材・水・器材を3回運んで貰う。
 梶野・志岐氏も到着され、モノレール終点から水・食材・器材を各自手分けして荷揚げする。大勢参加して頂いたもので、2回目は男性陣7名(岩本・山川・中村・川島・濱野・中前・沖崎)で全て荷揚げ出来た。

大江加さんチーフに賄い方(畑林・大江徳・生熊・高階・上村)は、おにぎり弁当用の御飯(4升)が炊き上がる間に副食を盛る。男性陣は、小屋周りの清掃と水場の大岩除去に梶野・山川・中村・岩本氏が降りる。残りの方で西側屋根下にブルーシートを張る。



小屋周り掃き掃除



おにぎり弁当作り



先に男性陣昼食



熊野市の3人下山



水場の大岩除去の人も戻り男性陣は先に昼食。荷揚げを終えた熊野市の3名が13時前に下山、この頃から雨が降り出す。
 おにぎり弁当(めはり2個+きなこまぶし1個)は、48名分(約150個のおにぎりをにぎる)を作ってから女性陣が昼食。



日の丸弁当作り



日の丸弁当に副食



弁当2食分+飲料水

日の丸弁当(御飯の中央に梅干)作りの副食(金時煮豆+レンコン+キンピラ+胡瓜Qちゃん+プチトマト)を添えるのに男性陣も手伝う。おにぎり弁当+日の丸弁当+餡パン1個+お茶と水500ml各1本をレジ袋に入れ、弁当2食分は48名分が出来た。
 児嶋さんは、管理棟階段に転落防止用の手摺設置と志納箱交換。



志納箱取替え



管理棟階段の転落防止用の手摺



夕食パックには、豆御飯+マグロ刺身+胡麻豆腐(田中律子さん手作り)+煮物(人参・椎茸・コンニャク・高野豆腐)+インゲン豆+紅白ナマス+枝豆の盛付けが、15時前に48名(山彦宿泊者5名分追加)が出来上がり、滞りなく聖護院一行を迎えられる。



夕食パックにおかずを盛付け



ベテランのマグロ刺身切り



豆御飯の盛付け



夕食の配膳略完了



準備が完了したので、15時15分頃に橋本・中前・濱野・児嶋・竹中・高階・奥村氏が下山。15時40分に生熊夫妻・上村夫妻が下山された。この頃には雨も止む、お疲れ様でした。



夕食の盛付けお膳



日帰り者・下山前に記念撮影



聖護院サポート隊の行仙宿到着は、予定では15時半であるが着かない。17時頃に携帯電話で連絡するがつかない。17時過ぎにメール着信があり、藤岡主事に携帯電話すると太古ノ辻迄に3名、持経宿で6名のリタイヤがあり宿泊者は34名。池郷林道ゲート間を2回往復し、池原公園でリタイヤした人をタクシーで送る手配を終えてから、行仙宿へ登るので19時過ぎになる、本隊は早ければ19時頃の到着になるとのこと。行仙岳へ迎えに登った梶野・志岐氏に連絡する。19時半前にサポート隊3名が到着すると、直ぐに梶野・志岐氏が戻り、



聖護院修行一行が行者堂で勤行

本隊は間もなく着くが、最後尾は約1時間遅れているとのこと。
 19時45分から行者堂で勤行。勤行後に女性行者(7名)は。管理棟で着替えて、ここで宿泊。男性行者27名は、行仙宿小屋で宿泊を決め、着替えて頂き、濡れた装束は室外のブルーシート下や室内で乾かして頂く。

着替を終えて勢揃いした20時40分より、事務局・沖崎から毛布並びに明日2食分弁当を食後に受取る旨等の説明後に、般若心経を唱えてから夕食がはじまる。味噌汁(ワカメ・巻麩・キヤベツ)も配る。豆御飯、味噌汁、夕食弁当は、宿泊者減員になりおかわりを勧めるも、疲れもありお替りは少なかつた。



当るーぶを含め39名が夕食をはじまる



2Lヤカン3個、7Lヤカン3個のお茶が無くなり。あわててお茶を作る。足りない行動中のお茶は、減員者のお茶を渡すことにする。梶野・志岐氏は、21時前に下山された。

消灯21時45分、明日は3時起床、4時出立との事。
 食事後、食事台を室外に出す。当るーぶの女性3人は、お堂で当初就寝するつもりであったが、少し狭いが管理の、下で10人就寝する事にした。沖崎氏はお堂、川島は資材倉庫で就寝。

行仙宿水場の落石除去作業

(記：梶野)

東北遠征の間に、生熊さんが行仙宿に行かれて(8/27)、水場に大きな落石を見つけて報告して頂いた。



巨大な岩を掘り出す

枯れ木をチェーンソーで切断 テコで移動

聖護院南奥駈行サポートの荷揚げが終わって、山川、中村、岩本、梶野の4名で水場へ向かった。生熊さんの報告通り、巨大な岩が水場の中央を占領していた。隙間が広い左側を掘り進めていくと、直径10cm位の枯れ木が姿を現した。飛び出してある部分を動かしてみるがビクともしない。さらに掘ってみると枝が落石の下に入り込んでいたのが判り、チェーンソーで切断して除去。

左側の小石がほぼなくなった時点で、巨大な岩の全貌が判明した。長さが90cm、太いところは50cmで50kg近いと思われた。両先端のとがった部分をハンマーで割り、ヒメシヤラを切りテコにして移動を試みる。何とか左の空間に起こすことができた。さらにテコで前方（下流側）に少し移動する。しかし水場のくぼみの中にあるので、約10cmの高さを越えることができず、協議の末、何とか立て起こして転がそう、ということになり、先端を削り取るためにハンマーをふるう。



岩を立ててみる

5人で作業

排除完了

志岐さんが加勢に来てくださり、5人がかりで立て起こして、水場の外へ出すことに成功した。途中で岩が思わぬ方向に傾き、足を挟まれそうになったが、事なきを得た。

行仙宿水場は大変狭く、下流は切れ落ちていて、片側の岩は滑りやすい。安全に作業できる場所が殆ど無いので、幸運は続かないことを前提に安全第一で、今後の作業を考えたい。

行動タイム

行仙宿9:52→10:05水場11:40→行仙宿12:05。

聖護院・南奥駈修行出迎えと行仙岳捲き道の調査（記：梶野）

17時になるが聖護院の一行は到着する気配がない。サポート隊からの連絡もなく、じっと待っているのも退屈なので、台風後の奥駈道調査を兼ねて、行仙岳まで志岐さんと2人で向かった。



山頂の倒木

行仙岳までの風倒木

捲き道分岐で到着を待つ

先頭が到着

登山道には枯枝が多数落ちていて、除けられるものは登山道外に排除した。行仙岳までに枯れ木の倒木が4か所、そのうち2本は登山道を横切って道を塞いでいた。一本目はまたいで通過。二本目は根元を迂回して通過した。どちらも腐っているが、太いのでチェーンソーが必要になる。行仙岳山頂付近にも倒木があったが、奥駈道ではなく、FM 中継局に向かう道を塞いでいた。



聖護院一行の先頭集団が行仙岳へ

17時38分山頂に到着、先行した志岐さんの姿が見えない。少し先へ下ったようだ。山頂で小屋から電話があり、サポート隊と連絡が付いたことを知る。しばらくして志岐さんが登ってきた。山頂で休憩していると法螺貝の音が聞こえてきた。怒田の宿で勤行しているようだ。聖護院の現在地がおおよそ判ったので、捲き道分岐まで降りて一行を待つことにした。太陽が西の山に隠れると、一気に暗くなり、おまけに霧が濃くなって見通しがきかなくなかった。さつきよりも法螺貝の音が近くで聞こえて「そんな所に靡があったかな？」と二人で話した。

ヘッドランプの光が樹間に見えだし、話す声が聞こえだしてか

ら約10分後、先頭の行者が姿を現した。先頭集団は20名ほど、最後尾はどのくらい遅れていますか？と尋ねると「1時間程度遅れていると思う」とのことだったので、先頭集団が通過したのちに、捲き道を通り小屋に向かった。

暗闇で濃い霧の中、杉の枝が積もった捲き道はちよつと歩きにくい。途中、枝の多い木が倒れこんでいたが、細い枝だったので押しのけて通過、その他は異常なしだった。

倒木を迂回しなければならぬ場所の後続が分かりやすいように道を付けていたら、聖護院の一行が追いついてきた。

その後はわかりやすい道を一気に小屋迄下った。小屋北の急坂を下っていると下にヘッドランプの明かりが見えた。明りの主は聖護院の牧山主事だった。今日はサポート隊として動いたらしいので「きょうは楽ちゃんやね」と言ったら「前鬼でリタイアした人が遅く、持経で6人リタイアして一度で運べずに、2回に分けて運び2倍時間がかかった、そんなに歩いては無いけどドット気疲れしました」と話された。

9月3日(月) 晴時々曇り

起床3時、発電機を作動させ点灯する。慌しく4時には行者装束の出で立ちで勤行。行仙宿で3名がリタイアされ31が行仙宿からの出立。

出立前に皆で新宮山彦ぐるーぷ接待へのお礼の言葉をかけて下さる。「満行されますように！」「またのご来山を！」「気をつけて！」と見送る。

ヘッドランプをつけて、サポート隊の協力を得て、室外の食事台を戻す。又、西側屋根下に張ったブルーシートを撤去回収する。

女性3人で夕食パックの後片付け、生ごみは沖崎氏が穴を掘り土に埋める。余った弁当と豆御飯はパックに詰めると共に炊飯器・鍋・ヤカン等を洗って収納する仕事が多い。

リタイアされた方とサポート隊(5人)にコーヒーを飲んで頂く

が、紙カップの在庫が無くサポート隊から提供して頂いた。



昨日、生熊氏改修補給路 ごみ・食材等の大きな荷を担ぎ下山

サポート隊が6時頃に下山される。我々も戸締りをして、ゴミ、食材等の大きな荷を背負って6時20頃に行仙宿から下山。

荷はモノレールで降ろす。サポート隊にはモノレール乗場で追いつき、その後追い越して登山口7時頃に降りる。

サポート隊には、夕食及び弁当積んで新宮を出発する際に、連絡する旨を伝えて別れる。

大江車を沖崎氏が運転して、新宮・沖崎宅に8時半過ぎに到着。女性3人は帰宅せずに沖崎宅の台所を借りて、朝・昼弁当(33名)作りに取り掛かれる。

川島は、入浴し汗を流すために一旦帰宅して、10時前に沖崎宅に行くと、生熊夫妻が手伝いに来て下さる。

最初に、おにぎり弁当「目はり1個+ゆかり1個+白御飯1個。(ゆかり・白御飯はサランラップ包み)に、副食として大豆煮豆+キンピラ+プチマトを添える作業は男性陣も加勢する。

次におまぜ用の御飯を炊き、おまぜ弁当(かしわ・人参・ごぼう・椎茸・シビ・豆等)は、12時過ぎに出来た。

大江親子・畑林さんは、ようやく解放され帰宅される。

尚、行仙宿で作った本日食べる余った弁当等は、新宮市内の会友(玉岡・児嶋氏等)に沖崎氏が配布して食べて貰う。

昨日から本日昼まで賄い方を担当して下さった大江親子、畑林さんに感謝申し上げます。

万福食堂の夕食(43名分)は、13時半過ぎに沖崎宅に届けられる。尚、夕食は、33名分であるが、昨日17時過ぎに減員が判明したが、仕込みの関係もあり減らす事が出来なかった。

サポート隊の藤岡主事に15時前に夕食と弁当を届ける連絡をすると、奥駆道と交差する道路で待機しているの、その地点へ届けることになり、生熊氏の運転で弁当届けに玉置川経由で走る。

岩の口から下った最初の道路交差点で待機しているサポート隊と14時45分に合流し、夕食・弁当を積み替える。その前で待機していた車は、なんと山上夫妻で紅茶、ジュース等の差し入れに来て下さったのである。しばらく待つと法螺貝の音がして一行が15時15分に到着され休憩後、15時30分に玉置山へ向けて出発された。玉置神社へは、18時過ぎになると思われる。

明日は、台風接近中であり、十津川猿飼橋を8時迄に発ち、京都・聖護院門跡に戻る予定とのこと。



岩の口から下った林道交差点に聖護院一行が到着・休憩

最後に、聖護院門跡から修行支援に対して過分な御礼を賜りました。ここに衷心より御礼申し上げます。

(記：川島、写真：梶野・川島)

聖護院奥駈修行の食料・宿泊費等の費用請求書

H30.09.06

科 目	金 額	内 訳
食材費	110,433 円	餡パン 7,794 円
		めはり用たか菜 4,714 円
		マグロ 30,559 円
		お米 13,500 円
		玉置神社夕食 43,000 円 (43名×@1,000)
		その他 10,000 円
飲料費	12,000 円	お茶・水 500ml
調味料	1,663 円	酢・醤油外
雑 品	9,070 円	弁当パック・レジ袋外
行仙宿宿泊代	68,000 円	34名×@2,000=68,000
交通費 (車補助金)	35,000 円	8/5 行仙宿・事前荷揚げ(15名;5台) 9/2 行仙宿・当日/(20名;6台) 9/3 玉置神社(4名;1台)
合 計	236,166 円	